

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	つばめ療育館大曲分館		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 5日		2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	2025年 12月 5日		2025年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご利用児の自主性を重視した支援プログラムとしていること。	他児と関わりながら取り組むことを決めたり、どんなルールにするかを検討したりする機会を意図的に設定している。職員は指示をするのではなく、ご利用児の主体性を引き出すよう関わるようにしている。	ご利用児が主体的な活動が安全にできるように、環境整備に努める。また、活動が職員主導になりすぎないように、声掛けの仕方やご利用児との関わり方について多職種間で研鑽する。
2	様々な体験・経験を積めるよう、学校の長期休業期間には多様な外出支援などの活動を取り入れていること。	外出先で様々な経験が積めるように、行き先のジャンル(公園、体育館、公共施設等)を限定せず検討している。	外出先での活動の目的、ねらいを明確にし、それをご利用児とも共有することで、社会に出たときの一助となるように支援する。
3	HUGシステムを利用し、利用当日の様子を分かりやすく伝えられていること。	写真を含め利用時の様子を伝えている。取り組み姿勢や表情なども伝えることで、ご利用児のみで通所していても安心していただけるようにしている。	写真を含めた記録を取っていきながら、具体的な改善状況を随時保護者にお伝えしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎を行い事業所を利用していただくことが多いため、支援以外の活動のお知らせが十分周知されていないこと。また、その連絡手段が少ないこと。(HUGシステムでのお知らせが中心になっている。)	保護者には、HUGシステム上の記録やお知らせの配信を見ていただける方とそうでない方がいられるため。	利用開始前にHUGシステム上のマイページを活用してもらえようようにお手伝いをする。
2	小集団での活動が主体のため、より個別での支援が適したご利用児への配慮が難しいこと。	個別支援に対応できる支援室の数が不足しているため。	個別支援が必要なご利用児に対しては個室を活用する等の対応を行っているが、それでも不足となった場合はパーティション等を活用し対応する。
3	支援室がやや手狭であること。	指定基準以上のスペースは確保できているが、ご利用児の年齢層が上がってきており、狭く感じることもあるため。	支援室各スペースを利用する時間帯やメンバーを分ける等の工夫を今後も継続する。